

組織の活性化に一考



<http://cysolutions.jp>

「はたらく」の語源、本当の意味

言葉は縄文時代か、弥生時代に生まれたという

- ・人々は50人から100人位の村を作り、
- ・ある人はお米を作り、
- ・ある人は家を建てるために木を切り、
- ・ある人は獣を狩りに行き、
- ・ある人は木の実を取りにいき、
- ・ある人は土をこねて土器を作る…

※村のひとりひとりがしっかりと役割を持ち「はたらく」ことで、
※みんなで支えあい、みんなが不自由なく暮らしていました。

お米を作る → 稲作
獣を捕りにいく → 狩り

それぞれの動きに対しての「言葉」作った

全部ひっくるめた共通の感覚にいきあたった。
それら全部を「言葉」にしたい…

日本人の祖先は、そこに、単純に「人が動く」という感覚ではなく、
「まわりの人たちを楽にする」という感覚
人はひとりで生きているのではない。

周りの人達に

- ・ 恩恵を受け、だからこそ自分もなにか
- ・ 貢献をしながら、互いに支えあい、そうやって成り立つ。

働く

日本人の仕事感、
価値観への夢とロマン

『はた』を『らく』にする…

『はたらく』

という「言葉」は生まれた。

はた・らく = 働く

保全マンの心得

※サラリーマン川柳から

こんな保全マンのいる会社は伸びない

・火をつけられてもすぐ消える人

・つけてもつけても火がつかない人

・燃えている火を消して回る人 **最悪！！**

口ぐせは「知らない」「できない」「聞いてない」

保全マンの心得 ※好奇心旺盛で

・周りから火をつけられたら燃える人

・自らハートを燃やしている人

・自らハートを燃やし周りのハートにも火をつけてまわる人

保全履歴は

”工場の生産技術ノウハウそのもの”

是非とも日本の物作りの
原点を復活させてほしい。

保全技術者は

工場の生産技術の要（かなめ）

※日本人の気質

どんな逆境にも屈せず、
知恵と勇気と器用さで
克服できることを悟れ

※明治維新の著名人の言葉